

地域とともに

協働の現場から

-164-

メモ

昨年6月に発足。会員は36人。桐生市の梅田、菱の両町にある4カ所の農地で水菜やパッションなどを栽培している。

る。

理事長の北條さんと琢磨さん、北条さんの友人で会計主任の金居知昌さん(20)が農業を通じて地域貢献を目的に、仲間呼び掛けて立ち上げた元気がなった」とい

心の回復へ農園提供

元気でるファーム

「自分のペースで気持ち良く作業してほしい」との方針から、障害者らは不定期で農作業に携わる。1週間連続して通う人もいれば、数週間通わない人もいる。

う声を聞くと、方向性にた。3年前に亡くなった間違いがなかったと実感できる」と話す。農園をに入れていた無農薬、有機栽培を受け継ぎ、有機JAS認定も受けた。北條さん兄弟の知人らに引きこもりがちな人が直販のホームページも立ち上げています。スタッフが驚くのは消費者の反応。「アレルギーがあった野菜が食べられなかったが、無農薬、有機栽培だから食べられた」とい



野菜を収穫する「元気でるファーム」のスタッフ

った声が年齢を問わず寄せられている。今後は障害者やアレルギーなどの支援に携わるNPOと連携し、活動を充実させていく。

5歳肥満率 全国4位

5.09% 県教委「生活改善を」

・学校保健統計

県内の肥満傾向がある子供の出現率が5歳では全国4位の5.09%となったことが18日までに、本年度の学校保健統計調査(速報値)で分かった。6歳と16歳を除くすべての年代でも全国平均を上

県内の肥満傾向の子供の出現率は5歳と15歳で特に高くなっている。5歳の女子は全国1位の5.16%

知的障害者福祉協会(三津田和行会長)主催のぐんま知的障害者施設ゆうあいフェスティバルが18日、県庁県民ホールで始まり、施設利用者が手作りしたパンや野菜などを買い求める大勢の来場者でにぎわっている。写真。20日まで。

手作りパンや工芸品が人気

ゆうあいフェスティバルで

40回目の節目となる今回は、施設利用者の作品展で展示方法の工夫をし

知的障害者への理解を深めてもらうと開催。た施設を表彰した。最優秀賞には広済会、優秀賞には三山黎明会と前橋あそび会が選ばれた。

会場には施設利用者が作ったフラワーポットなどのペーパークラフトや干支の真にちなんだ木工おもちゃなど多彩な品物がずらりと並んでいた。